

# 「江別市高齢者総合計画（第9期江別市高齢者保健福祉計画・第8期江別市介護保険事業計画）」（案）市民意見募集結果について

（市民意見募集期間：令和2年12月25日から令和3年1月25日まで）

令和3年2月

江別市 健康福祉部 介護保険課

## 市民意見募集の結果概要

### ■意見の募集結果

募集期間	令和2年12月25日（金） から 令和3年1月25日（月） まで
提出者数	4名
提出件数	13件

### ■意見に対する考え方の区分

区分	意見の反映状況	件数
A	意見を受けて案に反映したもの	—
B	案に意見の趣旨が既に盛り込まれているものと考えられるもの	5
C	案に反映していないが、計画の展開にあたって参考等とするもの	4
D	案に取り入れなかったもの	—
E	その他の意見	4
合 計		13

■いただいたご意見の内容と市の考え方（提出いただきましたご意見は、できるかぎり原文のとおり掲載しております。）

■募集期間を過ぎて提出されたご意見は、参考受理とさせていただきます。

番号	意見の内容	市の考え方	区分
1	<p>私の両親は共に現在84歳で高齢です。最近母が気落ちした出来事があります。それは、このコロナ禍で所属していた町内のリズムダンスのサークルが解散してしまったのです。年齢が年齢なので、外に出歩く機会という、そうしたことぐらいしかない、母の様子を見てみると、私も同じくさびしい気持ちになってしまいます。江別市としてもそうした実態を把握したうえで、サークル等の活動に代わる催しを企画してほしいです。もちろん感染症対策を万全に施したうえでおこなうことが必須です。一市民の切なる願いとして聞き入れてもらえれば幸いです。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の対策として、様々なサークル等の通いの場が活動を自粛しており、高齢者の健康づくり・介護予防に資する社会参加の機会が減少していることを、市も承知しております。</p> <p>市といたしましては、高齢者への感染リスクの低減を図ることが最優先と考えている一方、高齢者の自粛生活が長引くことによる生活不活発化が招くフレイル（虚弱状態）へのリスクも高まっていることから、新しい生活様式を基に、正しい感染症対策と合わせた社会参加の機会の確保を進める必要があると考えております。</p> <p>今後におきましても、引き続き社会情勢や地域の実情を注視し、感染症対策の所管と連携を図りながら高齢者に対する正しい感染症対策とフレイル予防の取組に努めるとともに、市内の通いの場の再開に向けた活動支援に取り組んでまいります。</p>	B

<p>2</p>	<p>新型コロナウイルス渦で、高齢者の生活様式が大きく変わったとされている。さらに、団塊の世代の後期高齢者入りも近い、これらに対応する取組を入れるべきでないか。</p> <p>さらに、この案は前回の総合計画を単に踏襲したもので、これまでの評価や換言等、PDCA が加味されていないのではないか。</p>	<p>現計画において、団塊の世代が後期高齢者となる2025年、さらに団塊のジュニア世代が65歳以上となる2040年を見据え、「地域包括ケアシステムの深化・推進」を目標に掲げて、高齢者施策の推進に努めてまいりました。</p> <p>本計画（案）の策定に当たりましては、現計画で定めた成果指標及び活動指標に基づく評価を行っているほか、「取組の成果と今後の課題」として現計画期間内の取組に対する評価とその見直しを行うとともに、国の示す高齢者福祉及び介護保険事業の方向性並びに本市の地域性や実状を踏まえて策定しております。</p> <p>さらに、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた、新しい生活様式を取り入れた高齢者施策の実施が必要であるとの認識のもと、施策項目に「災害や感染症対策の推進」を加え、さらに、後期高齢者に対する重度化防止を効果的に進めることを目的として、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」を新たに設定しております。</p>	<p>B</p>
----------	---	---	----------

<p>3</p>	<p>これからは、自立支援に向けた取組が必要で、江別市の基本方針として、在宅で安全・安心して長く暮らせるような体制を作ることではないか。</p> <p>これに向けて、介護保険を本人負担で賄える内容で、市財政・国保費の負担を軽減し、市立病院事業にも貢献できるものを考えるべきだ。</p> <p>見守り・介護・医療等で在宅高齢者を支える基本として、高齢者全世帯を把握する方策としてIT（テレビ、タブレット、スマホ、パソコン等）を活用して、少なくとも75歳以上の全世帯に端末機をセット（本人負担）、市・包括支援センター等、自治会、民生委員をつなげ定期的に会話し見守りと支援の判断をする。</p> <p>このネットワーク作りには、情報大学の協力を得れば江別市なら出来るのではないか。全国的に参考事例になる取組が沢山ある。</p> <p>高齢世帯側からみても、持家で長く暮らせ、金銭負担も応じられるはず。先行の全国例でも評価が高い、近隣の付合いが少なくなっている現状下では有効な施策と思う。女性を多用することがいい。市一斉でなくても、大麻地区から始めてみるのもいいのではないか。今の地域状況では個人では何も出来ず、組織的な動きが必要と思う。高齢者は、まだ自分で何とか出来ると考える者が多いはず、これを活かしつつ安全・安心の体制を作るべきだ。</p> <p>これには、市の高齢者担当の役割が極めて大きい、ビジョンを持って頑張りたい。</p>	<p>本計画（案）では、「江別市に住むすべての高齢者が自分の意思で、自分が望む生活を送ることができるよう地域全体で認め合い、支え合うまちづくりを目指す」を基本理念とし、その実現に向けた取組を進めることとしております。</p> <p>今後、一人暮らしの高齢者の増加が見込まれることから、様々な関係機関等が協力・連携しながら地域全体で支え合うまちづくりを目指し、在宅においても、高齢者の自立といつまでも安全・安心して暮らしていける体制づくりに努めてまいります。</p> <p>なお、ITを活用した見守り支援としては、認知症高齢者等が帰宅困難や行方不明となった場合に、GPS機器を活用した位置情報の確認など、既に実施している取組もあることから、今後においても、国が進めているICTを活用した高齢者への支援に関する情報収集及び普及啓発を行ってまいります。</p>	<p>C</p>
----------	--	---	----------

4	<p>生涯活躍のまち事業と連携して活動する取組をすることはどうか。市企画部が推進した事業であるが柱である道立高等養護学校の誘致が見通せないまま、福祉介護の整備が進められている。</p> <p>事業の目的は「生涯にわたって安心して生活できるまちづくり」であり共通点であるうえに「つしまグループ」は有力な組織でもあるのでここと連携することは、効果が得やすいと思うので、推進すべきと思うがどうか。</p>	<p>本計画（案）においては、江別版「生涯活躍のまち」構想及びその具体的な計画である「江別市生涯活躍のまち形成事業計画」との整合を図りながら、北海道、社会福祉法人日本介護事業団（地域再生推進法人）及び地域の関係機関などとの連携・協力のもと、地域包括ケアシステムの推進に努めることとしております。</p>	B
5	<p>第5節 安心して暮らすための環境づくり</p> <p>福祉除雪サービスは年金などの所得の多少に関わらず、行なってほしい。（ヘルパー、ケアマネジャー、生協の個配等の車を駐車させるのにどうしても除雪は必要）。公道に車を置けるように除雪を江別市で行うようにするのがベスト（自力で除雪できない高齢者・障害者は本当に大変です。）</p>	<p>福祉除雪サービスは、公道除雪後に残る住宅間口の置き雪を住宅敷地内の別の場所に移動させ、市道への出入り口を確保するサービスです。</p> <p>このサービスは、自力での除雪が困難な高齢者や障がい者等のうち、低所得の方を対象に除雪費用の一部を援助することで負担軽減を図ることを目的とした事業であることをご理解願います。</p>	E
6	<p>第5節 安心して暮らすための環境づくり</p> <p>救急袋は早急に配布してほしい</p>	<p>救急袋につきましては、市役所や地域包括支援センターの窓口で配布を行っており、毎年、広報えべつ等に利用勧奨のための記事を掲載するなど、周知啓発を行っております。</p> <p>今後におきましても、必要とする高齢者等の手元に救急袋が行きわたるよう、更なる周知啓発に努めてまいります。</p>	E

7	<p>第5節 安心して暮らすための環境づくり</p> <p>ごみサポート収集について、高齢者の安否確認につなげる意味もあるのでしたら週1回でなく週2回にしてほしい。</p>	<p>ごみ出し困難者への支援については、以前からの課題となっておりましたが、令和2年10月の収集体制の大幅な見直しにより、ごみサポート収集として開始したもので、戸別収集時にごみの排出がない場合には、状況に応じて安否確認も実施しているところではあります。</p> <p>現時点では、人員や車両の確保などの収集体制を整えることが難しく、支援回数を増やすことは困難な状況にありますのでご理解願います。</p> <p>なお、今後におきましても、地域住民同士の見守り合いのほか、緊急通報装置の貸与、安否確認電話サービス事業、民間事業者との連携などの多様な取組を通じて、高齢者の方が安心して暮らしていける環境づくりに努めてまいります。</p>	E
8	<p>高齢者がいきいきと日常生活できるためには、出歩いて多様な活動をすることです。そのためには交通機関の利用が欠かせません。是非とも高齢者に対する交通費の助成を具体化してください。(案に)</p>	<p>高齢者にとって安全・安心な環境を維持するには、交通費の助成だけではなく、医療や介護、生活支援サービスなど様々な施策が必要なことから、これら高齢者に対する政策全体の中で、優先度等を考慮しながら、総合的に判断してまいりたいと考えております。</p>	C

9	<p>11ページ 地域包括支援センターについて</p> <p>高齢者を自宅で介護・看取った経験から、その間の支援センターの存在がどれほど力強かったか。今は、向こう3軒両隣から困りごとがあれば、連絡、相談できる安心センターとして活用しています。</p> <p>江別市はそこで働く人たちに対して、もっと高く評価し、それにふさわしい待遇を道や国に求めていくことが江別市の大きな責任だと思います。</p>	<p>国は、「包括ケアシステムの深化・推進」に向けて、地域包括支援センターを中核機関と位置付けた高齢者施策の推進を示しています。</p> <p>市といたしましても、過去から、地域包括支援センターの総合相談支援などの高齢者支援機能を「包括ケアシステムの深化・推進」に向けた重要な推進機能として位置付け、事業展開を進めてまいりました。</p> <p>今後におきましても、地域包括支援センターが担う役割と機能を基に、医療・介護・福祉などの様々な関係機関と連携を図りながら、高齢者がいつまでも自分らしく、安心して住み慣れた地域の中で暮らし続けられるよう、高齢者施策を推進してまいります。</p>	E
10	<p>13ページ 介護予防や健康づくりの促進のための学習や実践は当然大切ですが、もっと幅広い学習の提供をしてもいいのではと思います。</p> <p>とりわけコロナ禍とその後の世界、ジェンダー問題、環境問題、農業問題など、時宜に叶った問題を引き寄せて映像でみせるなどできないでしょうか。</p>	<p>本計画（案）69ページからの生きがい・社会参加と協働のまちづくりの施策項目において、高齢者が生きがいを持って豊かな人生を過ごすため、様々な関係機関により趣味や生涯学習・文化活動等の場を提供することとしており、それらの活動の推進及び情報提供に努めてまいります。</p>	B

11	<p>20ページ 年老いても住み慣れた地域で暮らしたいとはどういう例があるか、身近に90代と接して感じることです。親のお金を管理している娘に対して「私を信用していないのね。通帳もみんな持って行って必要な分だけ」という場面に出会います。財布は空っぽでした。それでも住み慣れたここでくらしたいと。認知症の私の姉は「染やパーマ、カットのどれかを節約しよう」と息子に約束するのですが、いざ美容室に入るとすっかり忘れて高い支払いを済ませご機嫌です。息子は「あら、もう忘れたか。</p> <p>でも、お母さんの働いたお金だから」と苦にしていません。週3回のデイサービスと居宅サービス、息子の支援を受けて本人は「この暮らしが一番安心」と言っています。息子はヘルパーステーションと困ったことがあれば相談しています。</p>	<p>本計画（案）の策定に当たっては、現計画に定めた施策の体系の見直しを行っており、現計画で施策項目であった「認知症施策の推進」を本計画（案）では、計画目標に引き上げ、「認知症施策の推進と尊厳ある暮らしの確保」と位置付けております。</p> <p>国が策定した「認知症施策推進大綱」においても、認知症の人が尊厳と希望を持って、認知症の症状があってもなくても同じ社会をともに生きる、という内容が示され、今後においては、「共生」と「予防」を両輪とした施策を推進することが掲げられております。</p> <p>本市におきましても、認知症施策の推進は、高齢者の尊厳のある暮らしの確保に向けて重要な事業であると認識していることから、今後も、高齢者が住み慣れた地域の中で安心して自分らしく暮らし続けられるように、各種取組を進めてまいります。</p>	B
----	---	---	---

12	<p>21ページ 介護保険料が高いと思っている人は利用している人も、していない人も沢山います。その原因は国が一番知っているはず。高齢化社会が到来することを知らながら財源を国民に転嫁している。財源の使い方について江別市は市民の日常生活の暮らしやすさを第一に考えた施策を実施してほしい。</p> <p>【考察】はアンケート調査で済ませています。保険料のあり方について国にもっと責任のある姿勢を求めるべきです。保険料を使っていない私達も引き上げは限界です。が利用者に負担させたり、質を低下させるなどのもつてのほかと考えています。コロナ禍で住民の暮らしの実態を知っている江別市は住民を励ます施策を実施してほしい。</p>	<p>介護保険制度は、高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組みで、保険給付費の財源は、基本的に50%が国及び都道府県並びに市町村の公費負担、残りの50%を被保険者が負担する保険料で構成されています。</p> <p>また、負担能力に応じた負担を求めるという観点から、所得段階別に保険料を設定しております。</p> <p>本計画（案）では、保険料の設定に当たり、介護保険給付費準備基金を活用することで、保険料の上昇抑制に努めております。</p>	C
13	<p>30ページ 高齢者の外出、交通問題で困っていることを計画に入れて欲しい。</p> <p>高齢化が進みバス停まで行けない。大型店まで15分、買い物をするると帰りはハイヤーで帰る。駅まで20分。ハイヤーを使う。市立病院までのハイヤー代が往復で5千円以上。足が痛く近くのクリニックまでハイヤー代が往復1520円。どんな交通機関を利用しようと使える交通費助成制度を創設してほしい。高齢者の認知症を遅らせるためにも必要な施策です。根本は江別市のまちづくりの失敗にあるのではないのでしょうか。</p>	<p>高齢者にとって安全・安心な環境を維持するには、交通費の助成だけではなく、医療や介護、生活支援サービスなど様々な施策が必要なことから、これら高齢者に対する政策全体の中で、優先度等を考慮しながら、総合的に判断してまいりたいと考えております。</p>	C